

二〇二〇年度 二月二日

入学試験 国語問題

注意 1 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

2 答えは解答らんからはみ出さないように書きなさい。

3 字数の指定がある場合は、句読点や記号なども一字に数えなさい。

次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

渋谷歩美は木材を扱うおもちゃメーカーで働いている男性の会社員である。

歩美は、生きている人の依頼で、一生に一度だけ、死者との再会をかなえる「ツナグ」という使者でもある。しかし、歩美が使者であるということは、歩美と一緒に住んでいる親戚と、依頼した人たちしか知らない。

歩美は、仕事の取引先である鶏野工房に、仕事の依頼をするだけでなく、家族のように世話になっていた。

ある日、鶏野工房の職人である大将が病気で突然亡くなってしまった。大将の娘である奈緒は、工房を継がせてほしいと大将に頼んでいたのだが、その答えを聞く前に大将は亡くなってしまった。奈緒は大将からその答えを聞けばよかったと後悔していた。そのことを聞いた歩美は、奈緒に自分が使者であることを伝えるかどうか迷っていた。しかし、奈緒から電話がかかってきて、歩美は奈緒に自分が使者であることを伝えようと決意した。

(辻村深月『ツナグ 想い人の心得』より)

(本文省略) ※著作権法上の手続完了まで省略します。

問一 線①～③のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 線(1)「歩美は息を呑む」とありますが、このときの歩美の気持ちとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 工房までの道の雰囲気が変わったことをなげいている。

イ 大将がいらないということを実感して失望している。

ウ 賑やかだった工房が静になったことにとまどっている。

エ 様子や顔つきが今までとは違う奈緒に驚いている。

問三 線(2)「使者の話」とありますが、「使者」とはどのようなことができるのですか。それを説明したものととして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 亡くなってしまった大将が歩美に教えた技術を奈緒に伝えること。

イ 奈緒がもう亡くなってしまった大将に聞いてみたかったことを直接聞くこと。

ウ 亡くなってしまった大将の気配を感じられる建物にして奈緒をなくさめること。

エ 絶縁状態となってしまうと大将と奈緒の親子関係を修復すること。

問四 線(3)「何種類か作りました」とありますが、何種類かの作品を見て歩美が考えたことに合うものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 奈緒の作品はどれもよくできているので、大将も奈緒の将来を楽しみにしていたらうということ。

イ 奈緒の思いが伝わってくる作品ではあるが、その欠点を奈緒に伝える方がよいかどうかということ。

ウ 奈緒がどれだけ本気で取り組んでいるかどうかで、今後の仕事の取引について判断するということ。

エ 奈緒の作品は大将が作ったものと、さほど変わらないということ。

オ 奈緒が本気で工房を継ぐための準備や勉強をしていたということ。

問五 線(4)「敵わない」とありますが、どのようなことを受けて、奈緒は「敵わない」と言ったのでしょうか。三十五～四十五字で答えなさい。

問六 — 線(5)「その声を聞いて、歩美は——その場に立ち尽くす」とありま

すが、奈緒に対してどのような気持ちになったから、歩美は立ち尽くしたのですか。五十〜七十字で説明しなさい。

問七 — (6) で囲まれた部分は何のようなことを表していますか。その

説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 奈緒は大将と直接会話をすることがなくても、大将が生前、大切にしていたものから大将の価値観を共有できることがあるので、使者に頼らなくてもいいのに、自分が聞いた大将の考えを奈緒に伝えようとしたことは、歩美のおせっかいだったということ。

イ 奈緒は大将に直接会うことがなくても、大将が残したものから伝えなかったことを読み取れているので、使者に頼る必要がないのに、自分が使者だと伝えて奈緒を助けようとしたことは、歩美の思い上がりに過ぎなかったということ。

ウ 奈緒は大将と直接話すことができなくても、大将が言い残していたことから、大将の思いをくむことができるので、使者の存在を知らなくてもいいのに、自分に好意があると思いい、奈緒に使者のことを伝えようとしたことは、歩美のうぬぼれに過ぎなかったということ。

エ 奈緒は大将に直接会うことができなくても、大将の表情やしぐさを思い出すことで、大将の思いを受け取ることができるので、使者に頼らなくてもいいのに、想像力を否定するような形で奈緒を説得しようとしたことは、歩美の自己満足に過ぎなかったということ。

— 次の文章はヒトの脳と心について書かれた本の一節です。ここでは、

コミュニケーションについて書かれています。これを読んで、後の問いに答えなさい。

※問いの都合上、一部表現を変えたところがあります。

(明和政子『ヒトの発達の謎を解く』より)

(本文省略) ※著作権法上の手続完了まで省略します。

問一 — 線①〜③のかたかなを漢字に直しなさい。

問二 — 文中の **A** と **C** に入ることはとして最も適切なものをそれぞれの選択肢から選び、記号で答えなさい。

- A (ア) 例えは イ では ウ あるいは エ だが)
B (ア) ところが イ また ウ なぜなら エ 例えは)
C (ア) なぜなら イ しかし ウ つまり エ ところで)

問三 — 線(1)「神経科学の分野では『報酬』と呼んでいます」とありますが、

「報酬」とはどのようなものかについて説明したものととして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 何かをしようとするとき、行動によって変わる結果について、脳が推測して判断することにつながるもの。

イ 何かをしようとするとき、行動の原因について、脳が推測して結論づけることにつながるもの。

ウ 何かをしようとするとき、脳が予測して行動を起こす動機が高まることにつながるもの。

エ 何かをしようとするとき、その行動による不利益を、脳が予測して意味づけることにつながるもの。

問
「2」で囲まれた部分で、どのようなことが説明されているのかを

●の文のようにまとめます。I III にあてはめるのに最も適切なことばを、それぞれ指定された字数で文章の中からぬき出し、はじめと終わりの三字を答えなさい。

●ヒトを含む動物は、欲求が満たされたときや、欲求が満たされるとわかったときに、I(八字) させるので、脳は II(十八字) して行動選択を行う。その仕組みが、III(十五字) と言える。

問五 — 線(3)「ペットロボットのAIBO」とはどのようなことを述べるた

めの例ですか。それを説明したものとして最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ヒトとロボットがコミュニケーションをとるために、ロボットの欲求を満たしていくことで、ヒトとロボットとの信頼関係をつくることのできるということ。

イ ロボットを一度作ったら終わりということではなく、細かな部分を変更し続けることで、ヒトとロボットのコミュニケーションの問題点が解決されるということ。

ウ 科学の発達によって、ロボットとヒトのコミュニケーションがヒトとヒトとのコミュニケーションと同じになってきたので、ロボットの技術革新はもう必要ではないということ。

エ 社会的コミュニケーションにおいては、その相手側の反応が同じであるだけだと、その相手と関係を保つていきたいという意欲が下がっていくということ。

問六 — 線(4)「この報酬予測の原理」とありますが、「この報酬予測の原理」

は、三つに分けて述べられています。この三つの場合が、はっきり分かるように、「この報酬予測の原理」を五十〜七十字で説明しなさい。

問七 — 線(5)「前者の情動」、(6)「後者の感情」とありますが、次のア〜エに

ついて、「前者の情動」にあてはまるものにはA、「後者の感情」にあてはまるものにはB、どちらにもあてはまらないものにはCと答えなさい。

ア 無意識に起こる生理的変化が起こった原因を主観的に推定する意識的な体験である。

イ 無意識に生まれた心の動きに、意図的に身体を反応させて起こす主体的な変化である。

ウ 身体の内状態が変わることによって起こる、無意識の生理的な変化である。

エ ヒトが独自にもつ心のはたらきである。

問八 — 線(7)「感情への気づきは、生後の他者との相互作用経験なしには起

りません」とは、どういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分と他者の感情の違いを理解するには、相手の立場になることが大切だということ。

イ 自分の感情を意識できるようにするためには、他者とのやりとりが必要だということ。

ウ 自分の感情をあらわにしないためには、客観的に自分を見ることが重要だということ。

エ 自分の感情の原因をさぐるためには、自分の行動をふり返ることが必要だということ。

問九 この文章で中心的に述べられていることを説明したものとして最も適切

なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 社会的な場面でのコミュニケーションを持続するには、他者との共感的な感情のやりとりが必要である。感情のやりとりは、ヒトとロボットの間で行うことは技術的に不可能なので、感情を表現できる

ロボットの開発が早急に進められている。今後、ヒトとコミュニケーションをとれるロボットが開発されるのを期待したい。

イ

社会的な場面でのコミュニケーションを持続するには、他者との感情のやりとりが必要である。感情のやりとりにおいては、適度に「ゆらぐ」応答をすることによって、他者との関係を持続したいと思う動機が高まる。こうした感情のやりとりが十分にできないロボットとは、コミュニケーションを深めていくのは難しい。

ウ

社会的な場面でのコミュニケーションを持続するには、他者との相互理解が必要である。他者と相互理解を深めるには、自己の感情を意識化して、相手に不快を与^{あた}えるのではなく、共感的な感情を示すことが大切である。共感的な感情を持てるようなロボットとは信頼関係をつくることができる。

エ

社会的な場面でのコミュニケーションを持続するには、他者からのフィードバックが必要である。他者からのフィードバックを受けて、自分の感情に気づくことが相手との信頼関係を深めていくことに関係している。ロボットのフィードバックは正確^{せいかく}なので、ヒトもロボットのフィードバックを見習うべきである。